みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ情報紙
MINAMI-LOUNGE：http://tabunka.minamilounge.com/
2022年3月　発行NO.104

アクセスみなみ

地域で楽しむ活動を始めよう！

つながる・楽しむ市民活動
～はじめの一歩～

2022年１月　全3回を開催しました

第1回：南区まち歩き

横浜みなみガイド
ボランティアの会の皆様の
案内で身近な地域のスポット
を巡りました。

地元で
知らなかった
スポットがあり
驚きました！
（参加者Aさん）

第2回：わくわくマジック講座

街の先生　奇楽人・YUKIさんに
楽しいマジックを
たくさん教わりました。

楽しかった！
もっとマジックを
習ってみたいです！
（参加者Bさん）

第3回：団体紹介＆グループワーク

大岡川Fun Club・おもいやりカンパニー・
ひだまりの森による各団体の活動紹介後、
グループワークを行いました。

皆さんの活動に
刺激を受けました。
地域で活動を始めたい
と思います。
（参加者Cさん）

2021 みんなの「わっ!」フェスタ

日本語スピーチ・多文化ステージの動画と街の先生ミニワークショップのパネルを
南区役所ギャラリーにて展示しました。

「わっ！」フェスタの
説明とラウンジのパネル

南区役所ギャラリー全体

街の先生ワークショップのパネル

日本語スピーチ・多文化ステージの動画

換気、消毒を徹底し、開館しています。
来館の際には、マスクの着用・手指の消毒・体温測定などへのご協力をお願いいたします。

特集：南区施設間連携事業「まるごとみなみ」　～南区内の公共施設が連携して活動しています。～

施設交流会から始まった「まるごとみなみ施設連携事業」も今年度で8年目となりました。今年度は、「動画づくり」をテーマに、研修を行い、学んだことを活かして、21施設が自分たちの施設紹介PR動画を作成しました。

＜全体交流会＞

★6月　第1回全体交流会：担当者の顔合わせと研修をオンラインで行いました。研修では、「動画の良さ、脚本づくり等」、動画作成の注意点に関する話を聞き、理解を深めました。

昨年の施設連携でオンライン会議ツールZoomについては学んでいたので、どの施設も、オンライン会議の参加は抵抗なくできるようになっています。

★10月　第2回全体交流会：
講師の先生から、対面で「フォト」を使って、写真から動画を作成するノウハウを学びました。20施設の担当者が集まり、実際の操作を体験しながら、素材づくりから学びました。

講師の見本を参考に、素材づくりを実際にすることで、自分たちの施設紹介の際には、写真をどう加工したらよいか、具体的に考えながら操作を学んでいきました。

講師の説明を真剣に聞く施設担当者

「まるごとみなみ施設間連携事業」とは？

まるごとみなみ施設間連携事業とは、施設間で「顔の見える関係づくり」をモットーに、情報共有を行う会議の開催や、スキルアップのための研修等、施設間の連携を進める取り組みをする事業です。
今年度は、全体交流会で「動画作成」に関する研修を2回行い、全体連携事業で、希望施設21施設による施設紹介PR動画づくりを行いました。

南区
マスコットキャラクター
「みなっち」

施設紹介PR動画は
どこで見られますか？

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジや動画作成参加施設でモニター放映しているところがあります。　みなみ市民活動・多文化共生ラウンジHP「まるごとみなみ施設紹介動画」でも見られます。右の二次元コードでも見ることができます。

みなみ市民活動HP
「2021まるごとみなみ施設紹介PR動画」

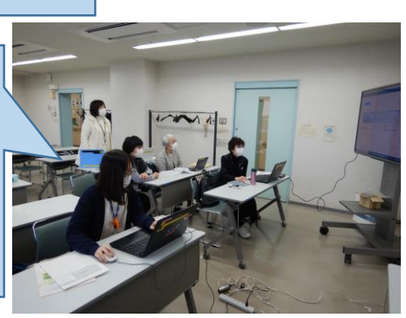
みなみラウンジでは、2022年3月31日まで、大型モニターにて公開中です。

＜動画づくりのサポート＞

研修を受けただけでは、実践につながりにくいこともあり、施設間で相互協力しながら、学びを深める場として、情報交換会を開催しました。
動画作成に詳しい担当者から学ぶ場になったり、他施設の進捗状況から刺激を受け、自施設の紹介動画づくりが進んだ施設もありました。

★8月情報交換会：
進捗状況の共有と動画作成の疑問点などを出し合い、学びあいの場となりました。

★12月情報交換会：
作成中の動画を持ち寄り、同じ空間で作業を進める中、お互いの動画を見あったり、やり方を学びあったりすることで、よりよい動画をつくろうという意欲が高まった会でした。作成中だからこそ出てくる疑問点などが解消されたり、情報交換会に参加してよかった、という声も多く、実際に交流できる貴重な場になりました。



区役所ギャラリーにて

2022年1月28日から2月4日まで、区役所ギャラリーにて、動画作成参加施設による施設紹介パネル展示と施設紹介PR動画の放映をしました。
パネル搬入・展示から撤収まで、関係施設の担当者で協力しながら行いました。
区役所1階にあるギャラリーですので、区役所に訪れた区民の方が、立ち寄って、各施設の紹介パネルや動画を見てくださっていました。

施設紹介パネルは、ギャラリー展示後、各施設で展示されることとなります。お近くの施設で見かけることがあるかもしれません。お楽しみに。

＜南区施設紹介⑫＞こども植物園

〒232-0066　南区六ツ川3-122　　事務所電話：045-741-1015

保土ヶ谷区との区境～狩場の丘～の植物園

横浜市こども植物園は、南区と保土ヶ谷区の区境にある約3ヘクタールの広さをもつ植物園です。
自然の地形を生かし、四季折々の植物の魅力を伝える場になっています。植物遺伝学者である木原均博士の研究所跡地を活用して整備され、園内には、小麦の研究をはじめ、植物の遺伝学、進化学の分野で数々の業績を残した木原均博士の記念碑もあります。

園内の植物は、研究所から引き継いだものと新たに増やしたものがあり、都市緑化植物園としての役割として花木園や生垣園などの見本園があるのも特徴です。

園の入口にある、見どころを紹介するパネル。
園内随所に植物に関する情報発信がされています。

珍しい植物がたくさん

くだもの園には、16種類の果樹があり、約100種のカキノキコレクション、ニュートンのリンゴ、メンデルのブドウなど、貴重な種類も多く見どころいっぱいです。

こどもメインの植物園は全国でも珍しい

子どもがメインの植物園としては全国唯一で、昭和54年の国際児童年にちなんで開園しました。園内随所に植物クイズパネルが設置され、楽しみながら、植物について学ぶことができます。
子ども向けの情報紙「こども植物園だより」を年3～4回発行し、横浜市立小中学校へ全校配布しています。「こども植物園だより」は、担当者の一押しポイントを手書きのイラストで紹介しています。なるほど！と思わせる内容が盛りだくさんで、大人も子どもも楽しめます。

ボランティアの協力も欠かせない

植物園の植物は、ボランティアと協力して育てています。バラ園は、横浜ばら会のもと、手入れをしています。標本館（非公開）に保管している貴重な標本の維持・管理は、横浜植物会と連携して行っています。

訪問してみて

2月に訪問した際は、フクジュソウや椿が咲いていました。温室内ではブーゲンビリアを鑑賞し、寒い冬でも花をめでることができました。
2月末の梅から、桜、野草園の花等、温かくなるにつれ、順次花が咲いていきます。
こども植物園は子どもの教育の場としての役割もありますが、近隣の方の憩いの場でもあり、園内は散歩がてら訪れる方が多くみられました。地域に愛されている植物園です。ぜひ、一度訪れて、植物を楽しんで、みていただきたいと思います。

【開園時間】9：00～16：30
※休園日：毎月第3月曜日（休園日が祝日にあたる場合はその翌日）及び年末年始

＜シリーズ：タウンニュースの記者が“見た・聞いた・感じた”＞

このコーナーでは、地域情報新聞「タウンニュース」南区版の門馬康二編集長が、日々、南区を回る中で感じたことなどを綴っていきます。門馬編集長は南区を担当して15年目。区役所などの行政機関や商店、市民団体などを取材し、イベントなどの現場にも足を運んで記事を書いています。

門馬編集長
（撮影：若尾久志）

＜地域活動のあり方問われた２年間＞

新型コロナウイルスの感染拡大から２年が経過しました。この２年間で地域活動のあり方は大きく変化しました。

観客を入れず、後日、動画で配信される南区役所主催の「地域活動発表会」（2月22日）

この２年を振り返ると、当初は得体の知れないウイルスにどのように対処していいか分からず、社会活動がストップしたような状況でした。徐々に対処法が分かり、人が集まることが避けられるようになりました。1カ所に人を集めるイベントは開催しづらくなり、講演会などの催しは、動画で配信されることが定着してきました。また、団体のメンバーによる話し合いも対面での開催を控え、リモートで行うところが増えています。

市民活動団体にとって、メンバーの減少や高齢化が進む中のコロナ禍は、団体の存在自体を危うくするものでした。集まれない、活動できる場所がないーといった事態に向き合い続けた２年間だったでしょう。

「収束したら」「元の生活に戻れたら」という言葉を聞きますが、もはや、コロナ禍以前と同じような社会になることは望めないと考えています。新しい社会に合わせた市民活動のあり方を創り上げていくことが求められていると感じます。

当欄は今回で最終回。私は今後もみなさんの活動を伝えながら、応援していきます。ご愛読、ありがとうございました。

2015年秋から始まった連載記事シリーズ「タウンニュースの記者が“見た・聞いた・感じた”」は、今回が最終回となります。

登録団体活動紹介リレー

大岡川 Fun Club

学ぼう！遊ぼう！大岡川！

●●団体結成の経緯●●

1995年1月に南区のなんだべ祭で、南区役所区政推進課と区民数人が大岡川を親しみのあるきれいな川にしようと区民に呼びかけたのが始まりです。当時の弘明寺前田公園前の護岸は親水階段など無く、ゴミを拾うにもフェンスを乗り越える状況でした。親水階段が出来た後も、夏は草がぼうぼうでゴミを投げ込む人が多かったですが、今はプロムナードがきれいになっています。設立当時の会員数は60人位でした。

活動予定

1月：野鳥観察、3月：自然観察とお花見散策、4月：源流域散策、5月：自然観察、6月：源流域でホタル観察、7月：カワセミ観察とリバーウオッチングと称しての生物観察、9月：川掃除、自然観察と源流域自然観察、11月は大岡川まるかじり（川掃除、環境啓発タイム、大岡川なべの食事、抽選会）、12月：源流域紅葉観察を行っています。

活動紹介

私たちは、横浜、南区内を流れる大岡川を大切な自然資源として捉え、身近に接し、自然・環境・福祉・歴史・文化の各視点で、大岡川と地域の関わり方、川とのつきあかた作法等の実践を行っています。子どもたち（区内小学校単位のネットワーク）・老人会の参加を得ながら、世代間交流や自然観察、プロムナードクリーンアップを行い、遊び心（Fun）を持って活動しています。

みんなで楽しくハゼ釣り大会

（写真上）ミナミメダカとウシガエルのオタマジャクシなど
（写真左）みんなで川の掃除

受賞歴

私たちの活動が評価され
・平成９年度「横浜まちづくり功労者賞」
・平成12年には「第８回環境保全活動賞」
・平成15年「第20回よこはま水辺賞」
を受賞しました。

■2021年度会員数：34人（うち女性12人）小学6年生から88歳まで
■会報：「大岡川232 from 6 to 1」年6回発行　■年会費：2,000円
■ホームページ：大岡川Fun Clubで検索してください。

●●今後の課題と夢●●

会員の高齢化が課題なので、若い会員を増やすこと。子供の時にイベントに参加してくれた人が大人になって自分の子供と参加してくれたらいいなと思います。

～INFORMATION～

ラウンジ設備を改善しました！

●ウォッシュレット完備しました

●研修室のエアコン一新しました

2022年度「利用者のつどい」について

利用団体・街の先生間の交流を促進するため、2022年度は内容を一新し、開催する予定です。ご参加お待ちしています！

新しい登録団体紹介

●NPO法人 横浜シティガイド協会

市内を中心とした地域をガイドする団体です。小学生から各年代層の方々を年間１万人以上ご案内しています。

●平楽の丘に風が吹く

平楽周辺の人々で地域社会の諸問題について意見交換や勉強会を行っています。

●英語でハマッコ

横浜と英語をテーマに会員が集まり、英語で様々な話題について話し合っています。

新しい街の先生紹介

ストレッチ・運動・フラメンコ
Motion Flamenco
（坂本 恵美 さん）

フラメンコの動きの取り入れた手・足・リズムを使って、シニアの方にも適した運動を行います。

フラメンコダンサー気分で楽しく運動できます。

Photo by YUKI OMORI

みなみ市民活動・多文化共生ラウンジは、誰もが心豊かでいきいきと生活できる元気な地域を実現するために自主的な活動を応援します。市民活動・生涯学習の相談・情報の提供、機材の貸出・ミーティングスペース等の利用ができます。

活動のPR・仲間募集をしませんか？

利用登録団体は、各団体が行っている市民向け講座やイベントなどのＰＲ、メンバー募集などをすることが出来ます。ご希望の際には、いつでもご連絡下さい。

次回原稿〆切：5月 31 日（6月発行）

発行：みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ
〒232-0024
横浜市南区浦舟町3-46　浦舟複合福祉施設10階
045-232-9544（日本語）
045-242-0888（外国語）
当施設は南区から委託を受け、YOKE（横浜市国際交流協会）が運営をしています。